

早稲田商学第 454 号  
2019 年 3 月

追 悼

## 太田正孝先生を偲んで

太田正孝先生は、昨年 9 月 28 日に急逝されました。商学部教職員を代表して、先生のご逝去を悼み、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。

先生が急逝されたのは、大学に出校してすぐでしたが、その知らせを受けた際には、「なにかの間違いではないか」と思いました。これは私だけではなく、他の商学部の先生方や職員の方達も同様で、「先日お会いした時は、お元気だったのに」、「昨日の夕方、事務所に立ち寄られた際には、何も変わった様子はなかったのに」というような感想を持つ方ばかりでした。まさに突然の訃報に接し、いまでも実感がありません。11 号館の研究室がある 12 階は回廊のような構造になっており、内側に窓があります。その内側の窓から、先生の研究室のドアが見えるのですが、今でもそこから先生がポットを持って出てこられるのではないかと感じる感覚をおぼえます。

先生は、1976 年に早稲田大学商学部を卒業後、同大学院商学研究科修士課程に進学され同課程修了後に東洋女子短期大学助手に任じられています。並行して同博士後期課程入学・単位取得後に、東洋女子短期大学専任講師、助教授を務められた後、1992 年に商学部助教授に着任され、1994 年教授に昇任されています。

校内では、商学部教務担当教務主任、大学院商学研究科長、理事、常任理事、エクステンションセンター所長、教務部社会人教育事業室長などを歴任されました。学外では、国際ビジネス研究学会常任理事、SIETAR (The International Society of Intercultural Education and Research) Japan 会長、(公財)大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長等をお務めになりました。

先生にはじめてお会いしたのは、私が大学院博士後期課程に入学した頃でした。その後、先生が商学部に着任されてからは、学部教職員ゴルフの会で一緒にするなど、プライベートな場面でもお付き合いする機会をえました。これは多くの方が認められるところだと思いますが、先生は温かく、心が広く、包容力があり、なにか人を惹きつける魅

力をお持ちで、また良い意味で親分肌の方だったといえます。それゆえに、科学研究費補助金による研究プロジェクトをはじめとして、研究・教育・大学運営などさまざまな場面で、多くの方々から慕われ、支援・協力を得られたのだと思います。

先生は国際ビジネス・異文化経営論における、日本を代表する研究者の一人ですが、つねに実態調査などに基づく実証的研究成果を発表されてきました。それゆえに、隣接分野を専門とする私も、先生の研究成果を大変興味深く拝見しておりました。近年、反グローバル化の動きが進んで見られるものの、大きな潮流としては、国際化・グローバル化の流れは不可避だといえます。ただし、近年のさまざまな動きは、「グローバル＝国境のない」現象というよりは、国境や異文化間の軋轢を露呈しているといえます。そうした意味で、先生の研究成果は、今後いっそう価値を増すと思われま

す。既述したとおり、先生は早稲田大学において、常任理事、商学研究科長等の要職をお務めになりましたが、直近では、NEOという新しいビジネス教育プログラムの立ち上げと運営に奔走されていました。このプログラムは、先生の熱意と努力がなければ実現できなかったものであり、まさに先生がこの世に、そして早稲田に残された大きな遺産であるといえます。

先生は、いつもダンディで朗らかでしたが、まれに奥様やお嬢様のお話しをされる時に見せた、はにかんだ笑顔が印象に残っております。先生のご逝去はあまりに早すぎましたが、奥様、お嬢様をはじめとする我々の記憶の中で、先生はこれからも生きていかれると思います。早稲田大学、そして商学部を愛された太田先生。商学部の今後の発展を、高いところから見守ってください。商学部教職員一同、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

2019年3月  
早稲田大学商学部長  
藤田 誠